

命を守るために

岐阜市立青山中学校 3年

田中 優真

今から7年前の2013年、10月14日、私の祖父は車の事故で亡くなりました。祖父は病気の後遺症から足が悪く、車のブレーキを改造して乗っていたのを、小さいながらに覚えています。あの時、祖父が免許を返納していたら…未来は変わっていたのかもしれませんが。悲しみに暮れながらも、人を巻き込んでいなくて良かったと、何度も言っていた父と母を思い出します。祖父の死から数年後、高齢者の免許の自主返納が話題になり始めました。しかし昨年、東京の池袋で起きた87歳の高齢者ドライバーによる事故のように、まだ高齢者による痛ましい事故は各地で起きているのが現状です。

現代の日本では、年々、高齢者ドライバーは着々と増えています。特に75歳以上の運転免許保有者数は、平成18年と比較すると、今では2倍以上になります。また、死亡率に関して、免許人口10万人当たりの死亡事故件数は、75歳未満は3.7件なのに対し、75歳以上は8.2件、80歳以上では11.1件と年齢が上がるほど事故を起こしやすいというのが事実です。

このような死亡事故を防ぐためには、免許の返納をするべきだと思います。この行動は自らの命を守るだけでなく、周りの人の命を守る行動でもあると思います。しかし、高齢者ドライバーの方々に免許の返納を進められる世の中でしょうか。私は、現在の生活環境が免許を返納することができないという方々を増やしていると思います。今、私たちが改善すべきことは、高齢者の方々が自ら運転しなくても生活していけるような社会を作り、免許の返納ができない理由を取っ払うべきだと思います。

では、なぜ、高齢者ドライバーの方々は免許の返納に踏み出せないのでしょうか。きっと車を使わないと病院や買い物にも行けないのではないのでしょうか。この声は東京のように交通機関が充実しており、車がなくても生活できるという地域だけではありません。バスやタクシーも少なく、歩ける範囲にお店もないという、いわゆる田舎でも多く聞かれます。実際に私の亡くなった祖父は鹿児島県に住んでおり、家の周りは畑ばかりでお店もなく、バスも少ないという環境で暮らしていました。だからこそ車が生活において必要不可欠でした。さらに、私達は祖父の家から離れた岐阜県に住んでいて、毎日生活を助けられるわけではなかったのです。だから、免許の返納を進めにくい状況でした。このような人たちが多くいるのではないのでしょうか。

本当にこのままで良いのか。意図せず出た行動で未来ある命が奪われてしまう環境で良いのか。誰しもが変えていくべきだと思います。だから、交通機関を充実させる、移動販売車などで簡単に買い物ができるようにする、インターネットと医療を組み合わせるというような動きを、より取り入れるべきだと思います。さらに、ドイツやオーストラリアで使われている、限定条件付き免許を取り入れ、ドライブを趣味とする人の楽しみを奪わず、事故を防ぐこともできると思います。

最後に、中学生の私でもできることは何か。それは、公共の場、生活の中で高齢者の方々に気にかけるということです。自分の家族でなくてもです。そういう人が増えれば高齢者の方々は車ではなく、バスや電車などにも乗りやすく感じられるのではないのでしょうか。でもやはり、私だけの力では社会の仕組みを変えることはできません。だからこそ、私は、この思いを伝え続けます。国全体として生活を取り巻く生活環境や交通の改善に取り組んでください。私達も生活の中で高齢者の方々が住みやすい環境を心がけます。そして、免許を返納できない世から、高齢者の方々が運転しなくてもよい世に変えていきましょう。それが多くの命を守ることに繋がります。そんな誰もが生活しやすく、悲しい命の最後になることがない世の中になることを、私は願います。